

自分の手足を動かして、多くの選択肢を知り、選ぶ。

藤原グレーヴァ香子研究会 Y.Kさん 単独インタビュー

経ゼミ委員：なぜグレーヴァゼミを選んだのですか？

Y.Kさん：グレーヴァゼミを志望した理由は大きく分けて2つあって、

1つ目は、**理論経済学の勉強をこれからもやっていきたい**という思いがあったからです。

大学1,2年生の頃に、マクロとかミクロとか、微積、線形、経済数学とかをやりますよね。でも、自分は元々理系だったというのもあって、それらをやっていく中で理論分野が得意だなと思っていたから、何となく「理論経済学の勉強がしたい」という想いがあったのが1つ。

もう1つが、とても大きいのだけれど、**勉強できる環境とそれを受け止めてくれる仲間と教授がいる空間だな**と思ったからです。

ゼミ生もとても優秀だと感じていたし、何よりグレーヴァ教授も論理的な発言が多くて、教授も優秀な方というのを調べてわかっていたので、そういう**優秀な人たちがいる環境に自分の身を置いて、なるべく負荷をかけた状況でやっていきたい**と思いがあったので、このゼミを志望しました。

経ゼミ委員：入ゼミ説明会などを通して、どのような変遷を遂げましたか？

Y.Kさん：自分は理論が好きだし得意だという自負があったから、最初から理論以外についてはあまり興味がなくて、**理論に絞って、理論系のゼミはほとんど全部見てまわりました**。

ゼミ説で「うちのゼミはゆるいから～」とか「あんまりやってない！」とかをアピールするゼミもある中で、グレーヴァゼミは「きちんと勉強します」というところとか、みんなも優秀で教授も厳しいという話をすごくされていて、そういう環境に自分の身を置くということで、一番負荷がかかるようなゼミ生活になるかなと思って、今のゼミを選びました。

経ゼミ委員：実際にゼミに入ってみていかがでしたか？

Y.Kさん：3年の時はとても大変でした。とにかく予習が毎週あるからなんです。その予習も水曜日がゼミだから、木曜日だけ少し気持ちが緩まって、金曜日は「水曜日ゼミかあ～」ってなって、土日は予習して、月曜日になると「ああもう今週ゼミかあ」っていう感じで、本当にすごく負荷がかかっている感じでした。でも4年になると、大分それも慣れてきて、今はいいリズムでやれているかなとは思います。

経ゼミ委員：「自分に負荷をかけたい」という思いはどのように生まれたのでしょうか？

Y.Kさん：せっかく慶應の経済に来たのだから「自分は勉強をちゃんとやったんだぞ！」という自負みたいなものが欲しくて、大学生活最後の2年は勉強をしっかり頑張りたいという思いがあったので、頑張るためににはしっかり負荷をかけたいと思いました。

経ゼミ委員：グレーヴァゼミの入ゼミ選考はどのような形式ですか？

Y.Kさん：細かいことは抜きにして、基本的にはテスト一発。テストも大問2つって決まっていて、**大問1が「経済学の論文に関する英語の和訳」で、大問2が「初級ミクロの計算問題」**。

和訳については、経済学的に正しく和訳できるかどうか、というところが見られていて、この目的は、うちのゼミで扱う文献が全部英語だから、そのために予習できるか、予習能力をチェックするっていうためのものです。

もう一方の、ミクロの計算問題の方は、期末テストとかで出るような簡単なクールノーの均衡を求めなさいとか、そういうレベルで、ネガティブチェックくらいかなという風に思っています。

経ゼミ委員：入ゼミ選考に向けてどのように準備をしましたか？

Y.Kさん：グレーヴァ先生のホームページに行くと、ミクロの過去問が上がっているのでそれをちょっと解いてみるというのが1つと、和訳についても過去問があるので、それを一通り見たという感じで、特別な対策はそれくらいかな。日頃のミクロをちゃんとやっていれば全然困るような試験ではない。和訳も辞書を持ち込み可でそんなに難しくないと思います。

経ゼミ委員：グレーヴァゼミに入っている人は、どのようなきっかけの人が多いのでしょうか？

Y.Kさん：今の3年生とかは、日吉でグレーヴァ先生のミクロの授業を受けてグレーヴァ先生が好きでそのまま入ったという人もいますね。僕は授業を受けていなかったのだけれど、ゼミ説と教授説明会に行って、無駄がない感じがいいなと思って、そのままグレーヴァゼミがいいな、とにかく負荷がかかるようなことがやりたいなと思って決めました。説明会などに行ってゼミの雰囲気が好きだったという感じです！

経ゼミ委員：入ゼミのイベントの中で印象に残っているエピソードはありますか？

Y.Kさん：まず、**入ゼミ説明会の個別ブースで話されていた先輩が、すごく論理的だったのが印象的で、本当に優秀な人がいるゼミなんだな**というのをそこで感じたのが1つ。

もう1つは、教授説明会で初めてグレーヴァ先生に会ったときに、衝撃的でした。こんな人いるんだ！と思って、話を聞くだけで、本当に優秀なんだろうなというのをもちろん教授はみなさんそうだとは思うんですけども、それがわかったし、だからこそここでやりたいなと思いました。**教授説明会に行かなきゃゼミのことはわからないと思う。マストだね！！**

経ゼミ委員：学生生活を振り返ってゼミはどのような存在でしたか？

Y.Kさん：大学生活の中で、バイトとか、サークルとか課外活動があって、そういうのを一生懸命頑張ってきて、勉強っておろそかになりがちだった部分もあったんですよね。そういう中でゼミの存在は「ここでしっかり勉強しよう」というような、なんか大学に来て勉強するっていう部分はゼミで全部補えるかなという印象があって、それは自己満足かもしれないけど、自分は大学生で勉強したっていう誇りにもなっているし、そういう意味でも非常に勉強するゼミだから、良かったなという風に思っています。

経ゼミ委員：1,2年生であまり勉強できなかった人の中には、もうゼミで勉強はやっていけないだろう…と思ってしまう人もいると思うのですが、逆に3年生から仕切り直せるのでしょうか？

Y.Kさん：1,2年生であまり頑張れなくて、でもせっかく慶應の経済来たから勉強頑張りたいと思っている人にはグレーヴァゼミはすごくいいと思う！！本当にしっかり勉強するし、宿題もしっかり出て予習もしっかりやらなきゃいけないという強制力があって、やるかやめるかの2択だから、だらだら続けるみたいなことは絶対ないのね。だから、**変わりたいなって思っている人**とかにもいいかもしれません！

経ゼミ委員：ゼミに入るか迷っている人に何かメッセージはありますか？

Y.Kさん：まずは自分は本当にゼミに入りたいのか？というところから考えた方がいいんじゃないかなと思っていて、

今4年生になって、周りには「ゼミ辞めたいな～」みたいに言っている他のゼミの友達が結構多くて、**ゼミって絶対入らなきゃいけないものではないし、まず自分が本当にゼミに入りたいか**、っていうのは考えるべきだと思います。

よく「就活に役立つ」とかいう話を聞くけど、自分が就活をしてみて別にゼミがどうだったから上手くいったとかっていう風には一切思っていないくて、**ゼミはゼミだし、就活は就活**だから、本当に自分がやりたい勉強がなかつたりする人は、無理してゼミに入る必要もないかなとは思います。実際に、ゼミに入っていない友人でも内定をもらっている人は沢山いますし、「どうしてゼミに入らなかつたのか」をロジカルに話せるならば、問題はないのではないかなと思います。

それで、**自分がこういう勉強がしたい、とかこの教授の下で勉強してみたい**という風に思うためには、**まずは何が選択肢として挙がっているかを知らなきゃいけない**。これはミクロ経済学でも一番最初に置かれる仮定なんだけど、選択肢を全部知った上で、その中で選好をつけていくっていうのがミクロの仮定であるんだけど、まさにその通りだと思っていて、選択

肢を全部自分で並べないと、何が良くて何が自分に合っているか自分でわからないから、経ゼミの人たちがせっかく色々な場を提供してくれていると思うから、色々な教授を調べたり、色々なゼミについて調べて、たくさんの選択肢を知ることが、一番大事なんじゃないかなと思います。

経ゼミ委員：ゼミと就活の両立はどのように上手くやられていたのですか？

Y.Kさん：自分の感覚ですが、就活ってそんなに日常生活を侵されるとは思っていない。就活をしながら週に1回のゼミに出ることがそんなに苦になるとも思えないし、逆に就活ばかりになっちゃう3,4年生ってもったいないと思うのです。その中で、どうにかこうちゃんと学生らしい研究もやりたいし、就活を言い訳にしてゼミとか勉強とかがおろそかになるのは自分は1番嫌だと思っていたから、そこの両立に悩んだことは一度もないかな。

経ゼミ委員：最後にグレーヴァゼミのアピールポイントを教えてください！

Y.Kさん：

①最初で最後の本当の学問をする場所

慶應の経済だと大学4年で就職する人が多くて、その後学問に携わる人はほとんどいない。その中で、**自分が学生として最初で最後の本当の学問ができる場所、こういう環境に自分の身を置けることがまず1番幸せなことだな**と思います。

②社会に出てから必要なスキルやマインドが身につく

グレーヴァ先生はそういう背景をわかってくれていて、僕たちが将来学者になるわけじゃないことをちゃんと理解した上で「**社会に出てからどういうスキルが求められるかということを意識した指導**」をして下さります。

例えば、毎週必ずプレゼンテーションがあるのですが、その中で、ハンドアウトを作って、スライドを作って、プレゼンをしていきます。その中で、ハンドアウトはこういう役割、スライドはこういう役割、自分の口頭での説明はこういう役割があって、それが全部1つになってプレゼンテーションなのだということだったりとか、

グレーヴァ先生から出される課題は仕事だという風に思え、と言われていて、期限内に正確に仕上げることっていうのが求められていて、それはどういうことかというと、期限が与えられたものに対して、どんな手を使ってでもいいから完璧にやってこいという風に言われているんですね。それは例えば、友達に聞いてもいいし、グレーヴァ先生のところに相談しに行ってもいいからとにかく「期限内に完璧に仕事をやってこい」という将来にも関わってくるような話になってきて、そういうところを意識して指導して下さるので、非常に社会人としても成長できているなと思います。

③論理的思考力が身につく

とにかく理論に対して厳密にやっているので、ここの論理が抜けているなとか、これはこうだから論理的でないなというのがきちんとわかるようになるような、論理的思考力がすごく身につくゼミだと思っています。

経ゼミ委員：とても魅力的なゼミですね・・・！

本日は、沢山お話してくださり、本当にありがとうございました！

【編集後記】

経済学部のゼミ生インタビュー、第三弾が終わりました。このインタビューに携わっている、経ゼミ委員も毎回学ぶことが多く、非常に楽しいコーナーとなってきています！

今回もY.Kさんのお話を伺って、"自分の手足を動かして、多くの情報を掴んで自分に合ったゼミを選ぶこと"は、"今後の人生でも活かされる力"ではないかなと思いました。多くの情報を手に入れると、見える世界が違ってくると私も思います。ゼミを選ぶ際にそのような力を養えば、皆さんの喫緊のイベントでもある"就活"にも活かせると、思います。

実際に経ゼミとしても、全体説明会・個別説明会・説明会冊子・TwitterやInstagram・HPなどを駆使して沢山のコンテンツを用意させていただいております。1・2年生にしっかり情報収集を常日頃から行っていただき、より良いゼミ選びになるように経ゼミ委員会は活動しております。どうぞ、様々な機会を駆使して、情報をキャッチアップしてくださると嬉しいです。今回も最後までお読みいただきありがとうございました。

(登内美月・田中麻里安)